



## インドネシア、第4四半期の成長率回復、ただし不確実性は残る

インドネシアの2013年第4四半期実質GDP成長率は市場予想を上回る前年同期比+5.72%と、前期(同+5.62%)から回復しました。2013年通期では前年比+5.78%でした。第4四半期に成長率が高まった要因は、貿易収支の改善です。12月の輸出額は前年同月比+10.3%、貿易黒字は2011年11月以来となる15.25億米ドル(約1,556億円、1米ドル=102円で換算)にのびりました。純輸出改善の背景には、通貨ルピアが対米ドルで下落基調を辿ったことに加えて、2014年1月中旬に発効した未加工の鉱物の輸出規制導入に先立ち、資源関連業者が12月に前倒しで輸出を進めたこと等があります。12月の鉱物輸出は前月比+40.2%でした。

一方、2014年1月の消費者物価指数(CPI)上昇率は、首都ジャカルタ周辺地区の豪雨による洪水の影響から特に生鮮食品において供給障害が発生し、前年同月比+8.2%(前月比+1.1%)となりました。2013年7月以降、7カ月連続で8%を上回ったこととなります。賃金上昇圧力が高まっていることに加え、5月頃の実施が計画されている産業用の大口需要家向けの電気料金値上げの影響もあり、今後数か月間はインフレ率の高止まりが予想されます。

総合的に判断すると、フラトン社では目先、インドネシア市場に明るい見通しを立てにくいと考えています。インドネシアでは昨年、通貨安対応やインフレ抑制のため、合計で1.75%の利上げを実施しましたが、これが2014年上半期の实体经济に重荷となる可能性があり、また、4月に議会選挙、7月に大統領選挙を控えて政治的な不透明感が高まる可能性も高いと考えています。日本を除くアジア株式ポートフォリオではインドネシアをアンダーウェイトとしています。

## フィリピン、政策金利を据え置き

フィリピン中央銀行は6日に開催した金融政策決定会合において、予想通り、政策金利である翌日物預金(借入)金利を現状維持の3.5%としました。これで、10回連続の据え置きとなります。特別預金口座金利(市中銀行が中央銀行に余剰資金を預け入れる際に適用される金利)も2.0%に据え置きました。会合後の声明では、インフレリスクは僅かながらも高まりつつあるとして、依然タカ派的な姿勢を崩していません。中銀は2014年のインフレ率見通しを従来の4.5%から4.3%に引き下げ、2015年見通しを若干引き上げ、3.3%としています。

## マーケット情報

### 【アジア株式】

	(2014/2/7)	
	終値	前週比
ハンセンH株※1	9,645	▲ 1.76%
香港ハンセン※1	21,637	▲ 1.81%
インドムンバイ500種	7,487	▲ 0.16%
ジャカルタ総合※1	4,467	△ 1.08%
マレーシア総合※1	1,809	△ 0.25%
フィリピン総合※1	6,011	▲ 0.50%
タイSET	1,296	△ 1.74%
ベトナムVN※2	550	▲ 1.21%
韓国総合※3	1,923	▲ 0.96%
台湾加権※2	8,387	▲ 0.89%
シンガポールST※1	3,013	▲ 0.47%

### 【アジア通貨(対日本円)】

	(2014/2/7)	
	終値	前週比
中国人民元	16.985	△ 0.46%
香港ドル	13.192	△ 0.40%
インドルピー	1.648	△ 0.98%
インドネシアルピア	0.842	△ 0.72%
マレーシアリングギット	30.711	△ 0.76%
フィリピンペソ	2.275	△ 1.07%
タイバーツ	3.121	△ 1.03%
ベトナムドン	48.540	△ 0.08%
韓国ウォン	9.527	△ 0.95%
台湾ドル	3.378	△ 0.45%
シンガポールドル	80.700	△ 0.98%

出所:ブルームバーグ

※1 1月31日休場のため30日と比較。 ※2 1月28日~31日休場のため27日と比較。 ※3 1月30日~31日休場のため29日と比較。

※ アジア通貨は全て(アジア通貨/日本円)の為替レートであり、前週比のプラスはアジア通貨の対日本円での上昇を、マイナスはアジア通貨の対日本円での下落を表します。

※ インドネシアルピア・韓国ウォンは100倍、ベトナムドンは10,000倍で表示しています。



## 投資信託の主なリスク

投資信託は、主に国内外の株式や債券、その他の有価証券等を投資対象としますので、組入有価証券等の価格の下落や、組入有価証券等の発行会社の倒産や財務状況の悪化、また外貨建資産に投資する場合には為替の変動等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は、投資対象資産の種類や投資制限、投資市場、投資対象国などが異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては目論見書や契約締結前交付書面等をよくご覧下さい。

## お客様にご負担いただく主な費用

ご投資いただくお客様には以下の費用をご負担いただきます。

- 申込時に直接ご負担いただく費用……申込手数料 上限 3.675% (税抜き 3.50%)  
※消費税率が 8% になった場合、上記の 3.675% は 3.78% となります。
- 換金時に直接ご負担いただく費用……信託財産留保額 上限 0.5%
- 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用……信託報酬 上限 2.31% (税抜き 2.20%)  
※一部のファンドについては、運用成果等に応じて実績報酬をご負担頂く場合があります。  
※消費税率が 8% になった場合、上記の 2.31% は 2.376% となります。
- その他費用……上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。当該費用は運用状況等により変動しますので、事前に料率、上限額等を示すことができません。

上記に記載しているリスクや費用項目は一般的な投資信託を想定しています。

費用の料率につきましては当社が運用するすべての投資信託のうち最高の料率を記載しています。手数料の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。投資信託に係るリスクや費用は、各投資信託により異なりますので、ご投資に当たっては、目論見書や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

---

## 投資一任契約の主なリスク

投資一任契約資産の運用においては、主に国内外の株式や債券、その他の有価証券等を投資対象としますので、組入有価証券等の価格の下落や、組入有価証券等の発行会社の倒産や財務状況の悪化、また外貨建資産に投資する場合には為替の変動等の影響により、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、組入有価証券の下落等により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、契約資産毎に、投資対象資産の種類や投資制限、投資市場、投資対象国などが異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、投資一任契約の締結に当たっては契約締結前交付書面等をよくご覧下さい。



## 投資一任契約においてお客様にご負担いただく主な費用

投資一任契約に係る費用は、契約資産の金額、投資対象、運用方法、契約期間等によりお客様と個別協議のうえ決定させていただきます。そのため、投資一任契約に係る費用の合計額については、事前に表示することができません。

- 契約の期間中にご負担いただく費用：……投資顧問報酬をご負担いただきます。適用する料率等は、投資対象資産、契約資産残高、契約内容等に応じて異なりますので、料率、上限額等を表示することはできません。
- その他費用……上記以外にご負担いただく費用(有価証券の売買委託手数料や有価証券の保管等に係る諸費用等)があります。これらの費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。また、投資一任契約に基づき投資信託を組入れる場合は、組入れた投資信託に係る信託報酬、信託財産留保額、その他の費用(監査費用、有価証券売買時の売買委託手数料、有価証券の保管等に係る費用等)をご負担いただきます。なお、当社が設定・運用する投資信託を組入れた場合は、必要に応じて投資顧問報酬の調整を行います。

詳しくは契約締結前交付書面等でご確認ください。

## 当資料に関してご留意いただきたい事項

当レポートはマーケット情報の提供を目的として、アストマックス投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当レポートはフラトン・ファンド・マネジメント・カンパニー・リミテッド(フラトン社)の作成した“THE FULLERTON WEEKLY”を参考にしております。レポート中の市場見通しや投資戦略等は、特に断りのない限りフラトン社の見解を示しています。

当レポートは、信頼できると判断した情報に基づいて作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、当レポート中に記載している内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更することがあります。当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。

アストマックス投信投資顧問株式会社の事前の承諾なく、当レポートの内容を転載または複製することはご遠慮ください。



## アストマックス投信投資顧問株式会社

〒141-0022 東京都品川区東五反田 2-10-2 東五反田スクエア 5 階

商号等： アストマックス投信投資顧問株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 387 号

商品投資顧問業者 農経(1)第 21 号

加入協会：一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／日本商品投資顧問業協会